

CTでは困難なことがあり、臨床症状と複数の画像検査による総合的な診断が必要であった。

13. 反復性の vertigo・cerebellar ataxia を呈した 小脳限局性海綿状血管腫

新井 洋, 河村 満
(川鉄病院)

反復性の vertigo・cerebellar ataxia は、特異で稀な病態である。われわれは、小脳に主病変をもつ海綿状血管腫で、これを呈した42歳女性例を報告した。症候上、発作期には左側の前庭小脳系の脱落症状を呈し、間歇期には逆に刺激症状を呈した点が特異であった。画像診断上MRIが有用であった。T₂強調SE法で腫瘍の周囲にヘモジデリン沈着と思われる低信号域を認め、小出血のくり返しが症状を反復する原因と考えられた。

14. 皮質型単麻痺における感覚—運動関連

I. 臨床的観察

坪井義夫, 中島雅士
(成田赤十字)

左中心前回皮質および皮質下に限局した小梗塞巣を有し、右上肢単麻痺を呈した65歳女性を報告した。障害筋の分布は皮質型単麻痺の特徴を有していた。また、麻痺の回復過程において、巧緻運動障害が出現し、これは視覚によって補正されることを特徴とした。巧緻運動障害の症候学的分類から、感覚入力と巧緻運動遂行との関連について考察を加えた。

15. 皮質型単麻痺における感覚—運動関連

II. 生理学的知見

中島雅士, 坪井義夫
(成田赤十字)
当間 忍 (千大・第一生理)

右上肢の皮質型単麻痺を呈した65歳女性で、発症後約1週間で右手指筋力はほぼ正常化したが、右手巧緻運動障害を認めた。この時期の右正中神経刺激の体性感覚誘発電位(SEP)で、一次感覚野由来とされるN19は導出されたが、運動野由来とされるP25は消失していた。巧緻運動障害の原因は、運動制御機構の入力系と出力系にまたがる領域の異常にあると考えられた。